

## 平成28年度 学校関係者評価委員による学校評価のまとめ

平成28年度も学校教育目標である「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成」にむけ、教職員一丸となって取り組んでまいりました。また、学年末にあたり、学校関係者評価委員の方に評価していただいたところ、以下となりました。

No.	内 容	A	B	C	D	A+B (%)	達成度 (A+B=90%以上)
<b>1 評価者による評価について</b> <b>○ 学校の自己評価の観点</b> <b>【 A：ほぼ達成（90%以上） B：おおむね達成（80%） C：やや不十分（60%） D：不十分（50%以下） 】</b> <b>2 達成度をA+Bが90%以上にあるものを「達成状況にある」とし、A+Bが80%以上90%未満のものを「概ね達成の状況」とする。これ未満の場合には、「やや不十分」または「不十分」として評価する。</b> <b>3 「意見欄」に成果、課題、ご意見、お気づきの点等を記入していただき、それらを集約し、学校運営に生かした点を記述した。</b>							
<b>I 進んで学ぶ子（知）</b>							
1	子どもたちの学力は、身につけていますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
2	子どもたちは、毎週配付される学習予定表をよく利用していますか。	60	40	0	0	100	達成状況にある
3	子どもたちは、家庭学習の時間のめやす以上（低30分、中45分、高60分）取り組んでいますか。	20	80	0	0	100	達成状況にある
4	子どもたちは、学校の勉強がよくわかっていますか。	60	40	0	0	100	達成状況にある
5	教師は、分かりやすく工夫して教えていますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
<b>II 心豊かな子（徳）</b>							
1	子どもたちは、家庭や地域の中であいさつがよくできていますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
2	子どもたちは、家庭で英語学習について話していますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
3	子どもたちは、いじめのない楽しい学校生活を送っていますか。	20	80	0	0	100	達成状況にある
4	学校の教室・廊下・校庭等がきれいになっていますか。	100	0	0	0	100	全員一致で十分達成である
5	教職員は、あいさつや電話対応が適切ですか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
<b>III 明るくたくましい子（体）</b>							
1	子どもたちは、家庭や地域で体を動かして遊んだり運動したりしていますか。	20	60	20	0	80	概ね達成の状況 1人が不十分の判断
2	子どもたちは、早寝早起きなど規則正しい生活や食の大切さ（好き嫌い、マナー、感謝の心）が身につけていますか。	40	60	0	0	100	達成状況にある
3	子どもたちは、交通ルールを守り登下校や正しい自転車の乗り方ができていますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
4	子どもたちは、自分のめあてをもち、学校の学習や行事に一生懸命取り組んでいますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
5	教師は、子どもたちの体力向上に向け、熱心に取り組んでいますか。	80	20	0	0	100	達成状況にある
<b>IV 自由記述と関係者評価委員会議で出たご意見等</b>							
<b>1 良い点</b> ○宿題やガクトン（自主勉強）によく取り組んでいるのがよい。特に宿題プリント等適切な課題が多く、学んだ内容の定着が図れている。ガクトン学習を保護者が確認することで、自分の子供の学びに寄り添うことができるのでよい。 ○登下校時によくあいさつをしてくれ、また、学校の様子を児童が話してくれるので、学校の様子がよくわかる。 ○校内掲示については、写真や児童作品で掲示がなされており、来校者にもよくわかる工夫がされている。 ○広い校庭や利根川等、学校の環境を活用した体力づくりに取り組んでいて素晴らしい。 ○感謝集会（2月2日に実施）では子供たちの心配りがわかり、ありがたかった。							
<b>2 改善点</b> ○児童のめあて意識を高め、達成感をより確信できる工夫をし、小規模校ならではの体力づくりが必要かと思う。 ○小さいいじめがあるように感じるので、見配り等をお願いしたい。 ○学校外では、気後れしてしまうのか、自分からあいさつができない児童もいる。保護者と連携をし、指導をしてほしい。							
<b>3 ご意見として出た内容</b> ○小規模校としての利点を活用し、異学年交流や全校活動、さらには他校との合同活動等により、多くの経験をさせてほしい。 ○児童のために、全職員が、共通理解をさらに推進してほしい。							
<b>4 学校運営に反映した内容</b> ○改善点として出た、『児童のめあて意識を高め、達成感をより確信できる工夫をし、小規模校ならではの体力づくりが必要かと思う。』については、「羽生市一週マラソンカード」の取組や業前活動での運動、また、担任から児童に声をかけ休み時間の外遊びを奨励する等、各種取組を継続的に行っている。まだ、それらの活動が学校関係者評価委員の方々に十分伝わっていないことがあるので、今後も活動を発信しながら、体力づくりに取り組む。 ○『小さいいじめがあるように感じるので、見配り等をお願いしたい。』については、教職員の認識の改革と共通理解をし、いじめは絶対に許されないものであるとの認識に立っての指導を展開した。この認識に則って、児童が、苦痛を感じるものはいじめととらえ、指導を行った。また、指導をするだけでなく、その児童に対しては、指導後の様子を意図的に時間の経過をみながら確認する等、アフターケアにも万全を期して取り組んでいる。 ○『小規模校としての利点を活用し、異学年交流や全校活動、さらには他校との合同活動等により、多くの経験をさせてほしい。』のご意見に関しては、羽生市立川俣小学校の研修であるテレビ会議システムを取り入れた研修に毎学期協力した。本校全教員が2回以上テレビ会議を行い、児童にとっても、異学年交流や全校活動、さらには羽生市立三田ヶ谷小学校との合同活動等という面でプラスになる教育活動が実践できた。 ○『学校外では、気後れしてしまうのか、自分からあいさつができない。』に関しては、本校での伝統ともなっている、下校前の指導で、地域にも元気で気持ちのよいあいさつができるよう、直接児童に指導をした。また、教職員で課題を共有化し、学級指導として、機会あるごとにあいさつについての指導を行ってきたが、今後も継続して指導していく。							